

花びらは葉っぱだった！ ハナミズキ

温暖化の影響と単純には言えませんが、ここ近年は、春の進みが早く、3月に夏日があり、4月も5月下旬並みの気温が続き、あっという間に桜は葉桜となり、4月下旬に咲き始めるハナミズキもすでに満開となっています。五中には、白い花をつける品種が3本、薄桃色の花をつける品種が1本あります。本校にはありませんが、濃い赤色を咲かせるタイプなども街で見かけます。



●花びらに見えるのは、「葉っぱ」です！

薄いピンク色で花びらのような部分は、花芽の時には蕾(つぼみ)たちを包んでいた部分で、葉っぱが変化した苞(ほう)という部分です。その中心部分に集まっている小さいのが花の部分です。しっかりしているので咲いている時期が長く、楽しめます。

アーティストの一青窈さんの「ハナミズキ」の歌詞の中に「君と好きな人が、百年続きますように…」というフレーズがありますが、ハナミズキの寿命は、80～100年くらいと言われており、樹木としては短命の部類に入ります。落葉樹なので、紅葉もきれいで、秋には、赤い小さい実をつけ、オナガやヒヨドリたちが食べにきますので楽しみです。

ハナミズキ ミズキ科ミズキ属(ヤマボウシ亜属)



中庭のハナミズキ



うす桃色タイプ



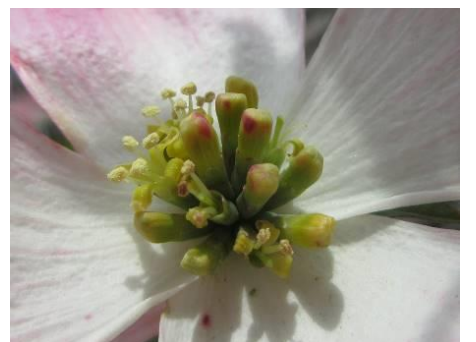
白いタイプ 校庭のハナミズキ



開く直前



花びらではなくて、苞(ほう)



ここが花(小さい花の集まり)

●100年前にアメリカから贈られたハナミズキ 都立園芸高等学校

ハナミズキは、北アメリカ原産の樹木です。およそ100年前、日本からアメリカ合衆国へ贈った桜の苗木(ワシントンD.Cに植えられていて、現在でも名所となっています。)の返礼として、アメリカ合衆国から贈られたのが、最初だとされています。

贈られた苗木は、日比谷公園や、小石川植物園などに植えられましたが、第二次世界大戦の戦火で失われてしまい、現在は東京都立園芸高等学校に、1本だけ残っているそうです。

【関連 HP】園芸高校のハナミズキの紹介(都立園芸高等学校 HP)

<https://www.metro.ed.jp/engei-h/pages/2020/04/post-5.html>

